令和５年度　横浜旭陵高等学校　第３回学校運営協議会 議事録

１　日　時　令和6年3月9日（土）13:30～15:30
２　場　所　県立横浜旭陵高等学校　Ｂ棟１Ｆ　多目的室
３　出席者　学校運営協議会委員：８名　（欠席者：山田様、若月様）
　　学校関係者：11名（管理職・総括教諭他）
４　内　容

（斉藤副校長　開会の挨拶および資料説明）

（総務管理GL　原教諭）

お手元に20周年記念事業記念品を準備いたしました。20周年記念事業として、過日故障しましたICT教室のエアコンに事業費の一部を充当し、残額で記念品として三種類、用意しました。今年度在校生には既に配付済みです。最後の入学生となる来年度1年次生の分も是非にとPTAからご提案いただき、そのようにさせていただく予定です。委員の皆さまにおかれましても、どうぞご活用ください。

（校長挨拶）

今日はお越しくださりありがとうございます。校長の大野俊世と申します。この場では2点お伝えしたいと考えています。

まず１点目、入試についてです。神奈川県では2月中旬実施の一次試験で定員に満たなかった場合は、この時期に二次試験が行われます。その二次試験が昨日行われました。

例年、本校は定員にみたない状況が多くあったのですが、今年度は定員が238名で、一次試験において満たない数が24名でした。二次試験では24名の募集に対して38名の方が志願してくださいました。非常に嬉しかったです。倍率にして1.58倍でした。おそらく横浜旭陵高校が経験した最大倍率だと思います。その他の学校であっても1.5倍を超えることはまずないことです。もちろん、競争を煽ってはいけませんし、それを旨とするものではありませんが、横浜旭陵高校が、必要とされている学校だと感じることができるのは、学校を運営する側としては非常に嬉しいものです。感謝しています。

その後、志願変更を経て、22名の方が受験をしてくださったという形です。ここまで注目されたのは、報道によるものが大きかったのかなと思います。入試の面接時にも「ああいった授業を受けてみたい」という言葉が志願者から多く聞かれました。我々としましては勇気も出ますし、その期待に応えることが責任だと考えています。この取組を発展させながら継続していきたいと考えています。

２点目が報道についてです。報道内容は「生徒の自己肯定感を高めるための授業をすすめていく」ということでした。これは教育委員会の指示で行ったものではありません。校内の教職員達から声が上がり、それを基に手探りですすめてまいりました。現時点で、一定程度の成果はみられたかと考えています。手前味噌な言い方にはなりますが、先生方の意欲が大変高く、異なる教科の教員が協働で授業をするという実践が数多く行われました。その結果、通常授業に対する考え方、授業に対する認知も変えてしまおうと考えていたところです。

本校の取組に教育長が注目し、視察のため来校しました。また、あるインタビュー記事においては「横浜旭陵高校が取り組んだ内容は、今後、全県の高校も取り組んでいくべきことだと考えている」と話していました。一般的に、教育委員会が学校を動かすというこ

とは当たり前なのですが、一校が全県に影響を与えたケースとなり、これはとても意義あることでした。

また、本校の授業を他校の先生方にも公開し、のべ50～60名ほど来校いただきました。生徒を支えようと考える多くの先生方に見学にお越しいただきました。

来年度も関係グループがいろいろな取組を考えているようです。学校を閉じるとは言え、生徒をお預かりしている以上、手を抜くことなく続けていこうと考えています。また来年度、新しい取組についてもご報告申し上げたいと思います。

この後、各GLよりご説明申し上げます。それぞれが学校をもり立てていくという気持ちを強く持っており、懸命に取り組んでおります。忌憚ないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

（研究開発GL　東南総括教諭）

研究開発Gは授業改善を主として活動しています。資料１をご覧ください。今年度は生徒の自己肯定感の向上を目指して取り組んでまいりました。授業改善の大きな柱の一つとして、先生方がお互いの授業を見合って、お互い高めあっていく、という授業見学月間を設けています。４月は教科ごとの授業、10月は他教科授業を対象として見学、相互評価による授業改善を図り、全体的な授業改善を目的として行っております。

４月は多忙な中26人の見学者がありました。10月からは認知行動療法の要素を採り入れた授業実践が始まりましたことから、把握しているだけでも43人の先生が授業見学をし、生徒や授業の様子を共有することができました。

７月と12月には、生徒による授業評価を実施しています。８月には桜美林大学の小関先生をお招きして「教科指導を通した認知の変容を求めて」というタイトルで教員対象夏季校内研修を実施しました。この研修を受けて10月以降授業実践をスタートしましたので、その検証のために、今年度の生徒による授業評価では２つの項目を設定いたしました。

具体的には、資料３にある、８、９の項目が本校独自の項目です。この2項目において、僅かではありますが肯定的評価の上昇がみられました。大きな差とは言えませんが、今後もこの肯定的な評価が少しでも増えていけばいいなと考えています。

10月以降は、各教科から実践者を出して研究授業を行いました。例年実施しているICT利活用の授業に加えて、認知行動療法を取り入れた実践も多くあり、非常に見ごたえのある授業が多くありました。

来年度もさらなる活発な教育活動のために教員研修も企画しております。生徒の自己肯定感の向上を目指して授業改善に取り組んでまいります。

（学事情報GL　大久保総括教諭）

学事情報グループは教育課程や成績処理、入試等さまざまな課題を多く抱える一年となりました。特に、新旧の教育課程が混在する中で、成績処等を間違いなくこなすことが目標となっていましたが、問題なく年度末を迎えられそうな状況です。来年度はすべての年次が新課程となっていきます。

一方で、閉校に向けても取り組んでまいります。現1，2年次生が残念ながら未履修、未修得、出席日数の不足等により卒業できないということが起きないよう、今までの履修方法に変更を加える必要もでてまいります。何度も検討を加え、臨機応変に対応していく所存です。

入学者選抜業務につきましては、今年度からインターネット出願に変更されましたが、県のシステムに不具合が多く、現場としては翻弄された部分もございましたが、全先生方

が一致団結して、一つ一つの入試業務に丁寧に取り組んでくださった甲斐あり、これまで一つのミスもなく遂行することができております。

在県外国人等特別募集につきましては、7名定員に対し、来年度は６人という多くの生徒が入学することになっております。一昨年度は3名、昨年度は1名でしたことから、外国にルーツを持つ生徒が多く入学してきます。日本語でのコミュニケーションが非常に難しい生徒からコミュニケーションは問題なくできる生徒と様々です。どのような支援ができるのか、各教科で検討し、グループでとりまとめをしながら確実に対応しているところです。

例年さまざまな課題が出てまいりますが、一番大切なのは、間違いのないよう、生徒に不利益がないようにしっかりと業務を進めていくことと考えております。先生方と情報共有をし、細やかな配慮をしながら、来年度も進めてまいります。

（進路指導GL　千葉総括教諭）

お手元の資料４をご覧ください。この春卒業します卒業年次生の進路概況になります。本資料作成日は3月4日でしたが、以降、新しい情報が入りましたのでご報告申し上げます。　まず４年制大学ですが、男子の一般合格に１名追加で計3名、現在合計４４名です。次ページ、大学名記載のないところに２名合格しております。星槎大学に１名、帝京大学に１名です。

次ページ進路先一覧③をご覧ください。公務員の欄に東京都交通局を追記ください。地下鉄の運転士になります。計４名となります。

残り２名は大学と専門学校の受験中、来週合格発表です。こちらの結果が全て出ましたら、卒業年次の進路一覧が完成します。

資料２に戻っていただいて、今年度改善点や課題につきまして、ご説明申し上げます。本校は総合的な探究の時間をキャリアの時間に充てています。今年度も三年間のキャリアの時間プログラムに検討を重ねつつ生徒が自分の進路に向き合えるよう支援してまいりました。あさって11日に実施します最後のキャリアの時間では、これまでは卒業生や外部の方の講演でしたが、今年度新しい取組として、この春に卒業する９名が自分の体験を１年生２年生に話す会としました。彼らにいちばん近い先輩たちからの話であれば、よりがんばろうと思ってくれるのではないかと考えております。

ただ進路決定につきましては最後まで悩んで悩んで、うまくいかなかったという生徒もおりました。来年度以降も学校を通しての就職活動が可能ですので、今後も引き続き支援してまいります。18歳、まだまだ成長途中でありますが、社会に出て立派な大人になってもらいたいと願っております。

（生徒成長支援GL　山森総括教諭）

成長支援グループは生活指導と教育相談を加えた２本柱で業務を行っています。生活指導件数では、新型コロナウィルス感染防止対策の影響で休校措置をとった４年前は５０件ほど、３年前は60件、休校措置等の影響がなくなった昨年度は９０件弱、今年度は７０件ほどです。私の着任前はもっと件数が多かったと聞いています。学校全体としてずいぶん落ち着いてきていると言えると思いますが、規範意識の育成が課題と考えています。指導の内容はSNSに関わるものが圧倒的に多く、暴力行為などは減少しています。問題行動に対してはその都度丁寧に対話を重ねて、適切な行動をとれるよう指導しています。

教育相談に関しては、SC、SSWともに面談予約が常にいっぱいになっている状態です。問題を抱えている生徒がたくさんいますので、今後もお世話になることと考えています。個

別に丁寧に対応してまいります。以上、資料に書かれていないことをお話しさせていただきました。

（自主活動GL　伊藤総括教諭）

生徒会運営などを主として業務を行っています。本校の部活動加入率は高くはないですが、顧問の工夫等により、少人数ながら充実した活動がすすめられています。たとえば野球部では連合チームを組んで、大会に参加しています。

学校行事では、昨年度実施できなかった芸術鑑賞会を今年度は実施することができました。旭陵祭につきましては、資料５に入場者数をまとめました。2日目の一般公開では感染症対策として最大500名、一家族２名ということで希望を募り、246名の入場者に来校いただきました。食品販売におきましては、昨年度までは実施できなかった調理を今年は実施できました。少しずつですが、コロナ前の状態に近づいているといえます。

昨日はボランティア講演会を実施しました。各年次でボランティアガイダンスを開催し、２年次生では長期のボランティア活動によって単位認定を受ける生徒も出ています。生徒会主催で校内清掃ボランティアも継続的に行い、毎回数名が参加してくれています。これらの取り組みに関しましても、生徒がいっそう参加しやすい形態などをグループで検討しているところです。また、閉校に向けて生徒数が減少する中で、学校行事の形を検討しており、課題に対応していく必要があると考えています。

（総務管理GL　原教諭）

総務管理グループはさまざまな業務を取り扱っています。学校説明会など校外への広報も大きな仕事の１つです。

残り３年で閉校であり、学校説明会等は今年度が最後のものでしたので、積極的に本校の活動を発信してまいりました。次年度からは閉校に関する業務が発生しますが、適切にすすめていく所存です。

（学事情報GL　大久保総括教諭よりサポートティーチャー活動報告）

資料６に活動報告がございます。まず、生徒相談件数実績のところ、１年次が22期、２年次が21期、3年次が20期に訂正をお願いします。

本資料はサポートティーチャーが独自に集計しているデータによるものです。資料によりますと、21期生の利用が、昨年度実績356に対して、のべ1462名となっております。Co-StudyLaboの部屋へ行けば、21期生の誰かが常に勉強しているという状況がございました。

1年次生は、292名と利用件数は少ないように見えますが、ほぼ同じ生徒が毎日サポートティーチャーのもとに通い、勉強しておりました。成績が上がったりテストが上がったりという報告ができるようになっていました。居場所としてサポートティーチャーのお世話になっている生徒も多いことから、来年度以降もこの試みを続けていきたいと思います。

卒業年次生の利用件数が９月から３ヶ月ほど増えているのは、指定校推薦を受けた生徒達の課題や面接練習のサポートをしていただいていることが起因していると考えられます。

これも県の仕組みとして存在するものではなく、本校の工夫と努力で続けられているものです。今後も協働して子どもたちの学びをサポートしていくために、Co-StudyLaboを継続していけるようにしたいと考えております。

（協議員からの質疑）

（小玉委員）

先生方の生徒への指導が大変きめ細やかであることに感銘を受けました。例えば、印象に残ったのは教科の違う先生方で授業見学をし合ったりとか、認知行動療法の要素を取り入れた授業実践を行ったりしているという点、Co-studyLaboの取組ですが、このような細やかな取り組みが、ことばにならない様々な課題を持つ生徒さんのニーズを掘り出し、成果に繋がっているのだと強く思います。せっかく成果が上がっているのに３年後には閉校しなければならないということが非常に残念ですし、今後三年間で先生方の人数も減っていくのかと想像しますことから、先生方のご業務が増えるのではないかと拝察いたします。次年度も先生方におかれましては、お体に気をつけて取組を続けていただきたいと思います。

（佐久間委員）

自己肯定感が上がれば学力が上がるというのは私も同意見です。中学校でもこのような取組をしたいと考えています。認知行動療法を取り入れた授業を取り入れたことによって自己肯定感が上がったと私は認識しています。その結果として、学力向上と認知行動療法との関連についての手応えはどうなのでしょうか。

また、新入生のカリキュラムは今後も同じでいくのかということもお尋ねしたく思います。

３年後に統合があるということで、今進学先など独自のものを持っていると思うが、それは受け継がれていくのでしょうか。

入学者選抜ではインターネット出願は中学校も大変でした。高校も大変だったと思います。入試の制度として来年度以降どのような状況が見込まれるかという点も気になっております。

（東南総括教諭）

学力向上の手応えに関しましてははっきりとは言えませんが、アンケート結果を見る限り、自己肯定感を育む授業の中で、生徒達の学習に向かう姿勢が前向きになったと感じています。教員が普段とは違う視点から授業デザインを考えることで、生徒も授業を受けることが楽しいという意見が多く上がっています。そのような授業の楽しさ、学ぶことの楽しさが学力向上につながるのではないかと考えています。

（大久保総括教諭）

令和６年度入学生についても、今の年次進行型単位制の「学び」を保障することは学校説明会でも周知申し上げているとおりです。この学びの保障には当然教職員の人数確保が大切になってまいりますが、今、校長先生が県教育委員会と話をし、その保障は確実にしていくということで努力しているところです。

入試におけるインターネット出願は中学校も本当に大変だったと思います。合格発表が見られない、手続きができないというお声を頂戴しました。今後県にも見直しを要請できたらと思います。

（大野校長）

中学校での困りごとを県教育委員会に上げる仕組みはあるのでしょうか。

（佐久間委員）
　校長会での意見を進路指導部会を通じて県に提出することになっています。

（千葉総括教諭）
　進路先との関係は学校との信頼関係で作られているものですので、新校は新校としての考え方になるかと思います。

（大野校長）
　再編統合先は旭高校ですが、旭を必要としている生徒と、旭陵を必要としている層はあまり重ならないと思われます。両校のよい点を合わせて新校にしていくという考え方は理想ではありますが、そういう点で、進路先を融合させることは実態としては難しいです。カリキュラム等教育活動をどうするのかはまだ協議できていない状態です。どんな中学生に入学してもらいたいのか、どんな生徒を卒業させたいのかしっかりとイメージしておかないと、送り出していただく中学校側が困ってしまうという話はしておりますので、この点に関しましては、少々お時間いただきたく存じます。

（久保委員）
　学習指導要領混在や3年後に控えた閉校等、さまざま過渡期といえる状況かと拝察します。ご苦労されていることと思います。そのような状況下でも授業の改善に取り組まれているということで、横浜旭陵高校で始まったことが、外に広がっていく可能性があると言うことで、それはたいへん意義のあることだと思います。
　前回の協議会でどなたかから横浜旭陵高校の卒業生が動物園関係者になっているという話をお聞きしましたが、その後、偶然その方に実際にお会いできました。さらに、先日、本園で生まれたレッサーパンダをある園に移動させたのですが、移動先で、その方がおそらく担当してくださっています。Zoolozyの授業をはじめ様々なところで繋がっているのだなと実感しました。

（大和田委員）
　コロナも落ち着いてきて活動が活発になってきた中で、閉校に向けてという話が出てくるのは、大変寂しい思いです。生徒の活動が活発に行われていることは良いことだと感じました。卒業年次生の進路先も決定されてきたようでよかったと感じています。
　認知行動療法を取り入れた授業実践の取り組みについて、メリットは十分承知しているのですが、デメリットのような部分はあるのでしょうか。先生方が感じておられる課題、気をつけなければならないことについてお話いただければと思います。

（東南総括教諭）
　デメリットというのであれば、新たな取組ということもあり、教材研究には時間がかかるというところかと思います。しかし、いろんな視点を取り入れるという点では、教員側も勉強になる側面も多々ありますので表裏一体と思います。
　自己肯定感の向上、認知行動療法という点だけに着目するのではなく、あくまでも教科の授業であるという点を大切にしたいと考えています。

（大野校長）

すべてがうまくいっているとはいえませんが、大きな失敗はしていない、という現状だと認識しています。それが生徒による授業評価の認知変容に関する項目の肯定的回答が微増ではありますが上がっていると言うことと、もう一つ、我々が一貫してお世話になっている桜美林大学の小関先生、専門家による第三者の立場から分析していただいているデータがございまして、そこでは有意差のある上昇が見られるとのお話をいただきました。これらのことから決して失敗はしていないのだろうと考えています。自信を持ってすすめていこうと考えています。

デメリットにつながることとして怖れているのは、今はまだ始めたばかりで慎重にすすめているので大丈夫なのですが、この取組の本来的意味を見失ってしまう可能性があるということです。認知行動療法の意味を理解しないままに取り組んでしまうと、マイナスが出るわけではないけれど、この取組の本来の役割、つまり、この授業によって学力を上げつつも、生徒達が社会に出たときに役立つ力がいつの間にか身についているということを理想としていますが、その点を忘れてしまうことになりかねません。教職員が全体としてしっかり勉強していることが求められており、足並みをそろえてとりくんでいきたいと考えています。将来想定されているデメリットとして私が怖れているのはそういうことです。しかしながら、そのようなことが起きないように充分につとめていくつもりです。

（十亀委員）

先生方の熱心な取組を聞かせていただいて、いい学校だなと感じております。佐久間委員からもありましたが、アンケート調査結果を拝見したり、山森先生のお話をお聞きしたりしたところではありますが、学力は向上したのかという点では生徒の変容がわかりにくい部分があるように思います。

たとえば、生徒会活動の中でボランティア参加者が増えてきたとか遅刻が減ってきたなど生徒の行動の変容に関して、具体的なことがあればわかりやすいと感じました。

私自身は、働くときにコミュニケーションをとることは大事だと感じています。自己肯定感を上げるためには、コミュニケーションを取ることは重要だなと感じています。自己肯定感の低い社員さんですとミスをして注意をされたとき等に「自分がだめなんだ」となってやめてしまうのかなと思います。自分がだめなのではなく、やり方や考え方が間違っていたためであるからそれを正しい方向へ変えていこう、というように考えられれば、仕事を辞めずにすみますし、その方の成長にもつながると思います。

一方で、自己肯定感が高い方、自信がある方はミスをしやすい、作業が雑ということもあるように感じています。そのような傾向のある生徒への取組はされているのか気になりました。

（大野校長）

生徒の変容が具体的にわかっているものはあるかというご質問ですが、明確にみとれるところまでには至っていないのではないかと私は考えています。しかし、出席率が低かった生徒が上がっている、学習活動に取り組む姿勢が意欲的になっている等、そのような点を達成することが目標ですので、それを目指して取り組んでまいりたいと考えております。

２つ目のご質問は、自分中心になってしまっている人へのケアということかと思います。これは全日制高校の良さだと思うのですが、集団の中で生徒がお互いに関わりながら

育っていくということがあります。基本的にどの授業も、生徒が複数いるので共同作業の場になります。

もうひとつ、自分中心になってしまっている人へのケアに関してのご質問をいただきました。全日制高校の良さでもあるのですが、基本的にどの授業も共同学習の場となっています。授業内でお互いに関わり合っていく、具体的には、ある発言があり、それを受容し合っていく、その上で更にお互いが高め合っていけるような配慮や指導、それができるのが全日制高校の良さです。認知行動療法の要素を採り入れた授業では、一方的に授業者が話すだけはなく、生徒達がお互いに関わり合うことが大切だという講義も本校の教員は研修において受けておりますので、ご質問の件は、ケアすべき視点として設定されており、視野に入れています。今後より高めていきたいと考えています。

（渋谷委員）

地域貢献デーや生物部と中堀川のホタル育成の関係で協力いただいております。来年度以降もお願いしたいと考えています。

来年度１年生が最後の新入生、中学校の統合とはまた異なる仕組みのようで、次第に生徒数が減るというのは可哀想に思います。一年生は後輩がいないまま進級していくので、学校生活の中で学べない部分があるのではないかという心配がありますが、いかがでしょうか。

前回の協議会でお知らせいただきました認知行動療法の話は、その後すぐに報道されました新聞記事を拝見しました。地域での活動も会社で働いたときにも、楽しいこともつらいことも楽しくしよう、失敗のなんとかなると考えよう、と心がけてきましたが、それが認知行動療法と関連するのかと考えたところです。

地域では環境問題活動の一環として、グリーンエキスポ2027の準備に取り組んでいます。認知度はまだ低いようです。旭区と瀬谷区にまたがって開催されます。我々としましても環境への取り組みを世界に発信しようと取り組んでいるところです。地域清掃はまさにその一環です。地域貢献デーでも、その点を意識していただけるとありがたいです。

（大野校長）

渋谷委員がおっしゃってくださいました、次年度の一年生が卒業するときには自分たちの学年しかいない、ということにつきまして、閉校決定後の学校説明会にて、毎回包み隠さず説明をしてまいりました。「あなたたちが最後の入学生、後輩は入学してこない、だんだん人数は減っていって、最後は自分たちの学年だけになる、そして、卒業するときには、この学校も同時に卒業になる。」

その話を聞いてくれているその時の中学生の表情を私はずっと忘れないと思っているのですが、やはりつらそうでした。ですので、そこで話を終えてはダメだと思いまして、確かにそのような事実はあるのだけれど、受け入れる私たちはチャンスだと思っているという話をしました。生徒の数が減るということは生徒一人あたりに充てられる先生たちのエネルギーが増えるということだという話もしました。また、「ほんとに寂しいのか想像してみない？」と問いかけもしました。下の学年が入ってこないのであれば、3年生になるまでに自分たちの学年は、世界で一番仲が良い学年になっていればいいんだよねと話し、これらのことを理解したうえで入学してほしいと伝えました。したがいまして、少なくとも入学していただく段階では、これらのことは覚悟していただいていると思います。

あとは、23期生達を寂しくさせないような取組を学校側が継続させられるかということにかかっていると考えます。教員一同邁進していきます。

（渋谷委員）

そう考えると、将来、とても充実した同窓会ができるかもしれませんね。

（渡邉委員）

自分のできることとして、学校のことを自分の周りの方に伝えたいといつも思っています。今日も午前中にPTAの実行委員会がありましたので、話をしてきました。ここまでお話を伺っていて、いろんなことがつながってきたなと感じています。

昨年度か今年度当初、高P連でも健全育成委員会におきまして、自己肯定感を高める取り組みをグループワークで取り組んでいたところですが、それを学校で、先生方と生徒たちで行ってくれています。先生、生徒、親というように繋がってきているという思いを強くしています。

そうすると、生徒が先生を信頼して相談しやすくなっているようです。今までだったら自分とはタイプがあまりにも違うと思って話しかけなかった子にも、話しかけるようになったと娘が話していました。周りの子達もグループで歓然に色分けされてたはずなのに混ざってきているという話をしてくれました。子ども達も変化を自覚してきているのではないかと感じています。

また、二年生のお子さんのお母さんから聞きましたが、テストの点があまり良くなかったのだけれど、成績が3とついていたので、なぜと思ったそうです。その子は、単位を落とすかもしれないという状況だったのですが、意欲関心が高く、授業を休まず、サポートティーチャーの部屋にも通って勉強していたそうです。それによって成績が下がらなかったと言うことが自信になり、最近では進学にも意欲が出てきて、給付型の奨学金まで自分で調べてきたそうです。勉強が苦手で単位を落とすかもという心配をしていたような子が、一年でここまで変わるのだと驚きましたので、是非この場でご報告しようと考えていた次第です。その子の周りにいるグループも後輩も変わってきたそうです。すごく雰囲気の良い学校であることを多くの人に伝えたいと思います。また、子ども達自身に余裕があれば、部活動や生徒会活動やアルバイトにも繋がっていけるのかなと思うので、今後も見守っていきたいと思います。

（大野校長）

委員の皆さま、ありがとうございました。皆さまにお支えいただきましたことから、本日３回目として一年間のご報告ができたと考えています。

また、今日もたくさんのご意見をありがとうございました。いただきました意見を必ず整理、共有し、来年度につながるようにしてまいります。閉校はしますが、私達教職員は誰一人しょげてはいません。それならばもっと面白いこと、楽しいことをたくさんしようと思っています。楽しみながら今後三年間やっていくことが、子どもたちにとっても良いことになるだろうと信じています。今後もお支えください。ありがとうございました。

（斉藤副校長　閉会の挨拶）